

# 異常気象時における農業生産基盤整備の有効性調査について（大雨・豪雨編）



令和4年12月  
北海道農政部

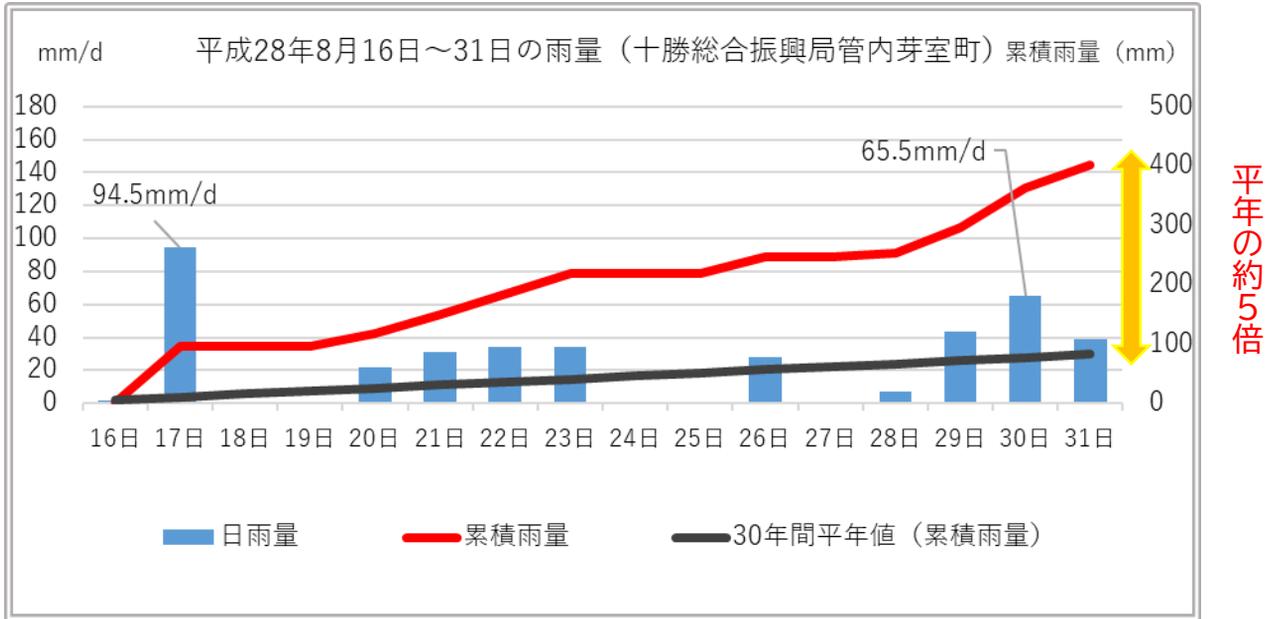
## ◆ 調査目的

- 近年、記録的な豪雨や高温少雨等の異常気象が頻発しており、道では、厳しい気象条件下における農業基盤整備の有効性を確認することを目的に、効果検証を行った。

## 【平成28年度 大雨による農作物や農作業等への影響に係るアンケート調査】

## ◆ 平成28年度の気象

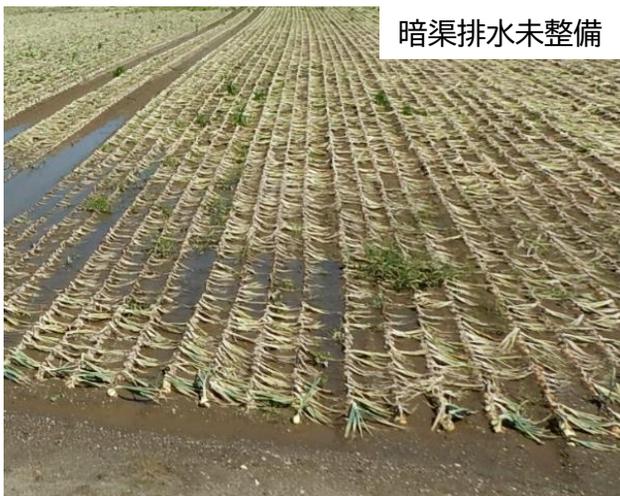
- 平成28年8月の台風等による記録的な豪雨（8月16日～31日）で、河川が氾濫し、上川、オホーツク、十勝を中心とした北海道全域でほ場の湛水被害が発生したことから、農作業や農作物の生育に影響を及ぼした。



出典：平成28年度大雨による農作物や農作業等への影響に係るアンケート調査結果  
（平成29年12月、北海道農政部）

## ◆ 調査内容

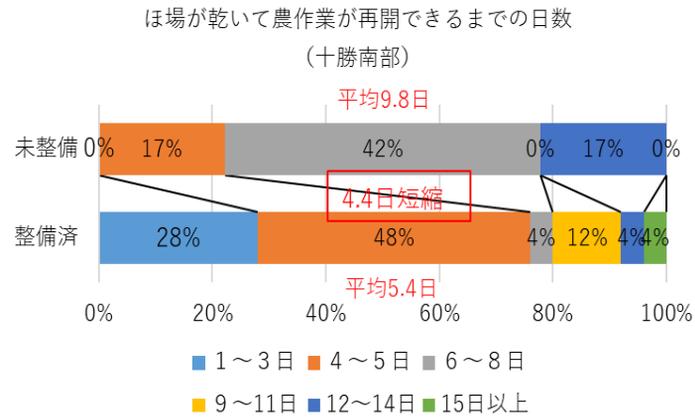
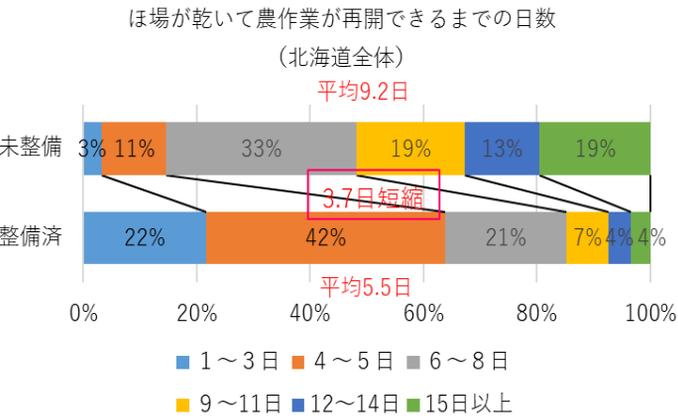
- 暗渠排水による被害軽減の内容や状況を把握するため、台風等による大雨の影響を受けた空知、上川、オホーツク、十勝、根室の各振興局で暗渠排水を実施した農業者を対象にアンケート調査を行い、385戸から回答があった。



収穫直前の玉ねぎ畑（8月）

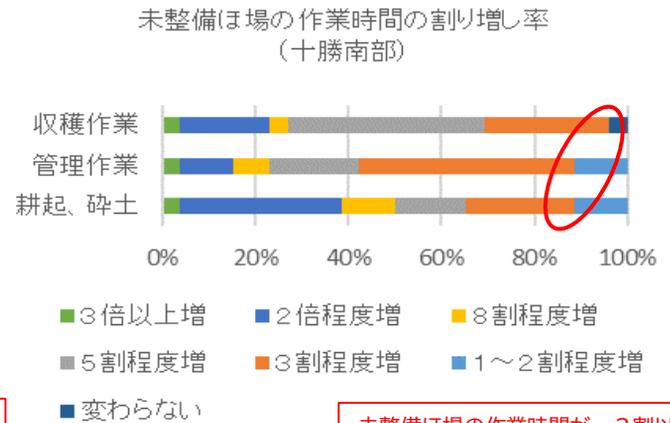
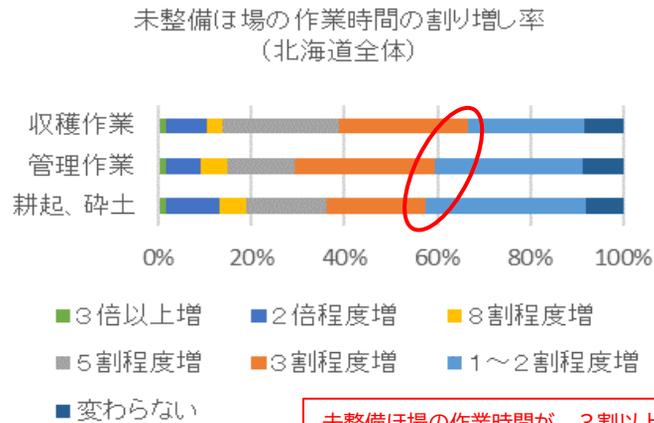
# ◆ 調査結果

○ 降雨後、ほ場が乾いて農作業が再開できるまでの日数は、暗渠排水の未整備ほ場で9.2日、整備済ほ場で5.5日となり、3.7日短縮することが確認された。



出典：平成28年度大雨による農作物や農作業等への影響に係るアンケート調査結果 (平成29年12月、北海道農政部)

○ 暗渠排水の未整備ほ場は、整備済ほ場と比較して、作業時間が3割以上多いと回答した農業者が約6割であったことから、整備により作業効率が向上していることが確認された。



出典：平成28年度大雨による農作物や農作業等への影響に係るアンケート調査結果 (平成29年12月、北海道農政部)

## 生産者の声

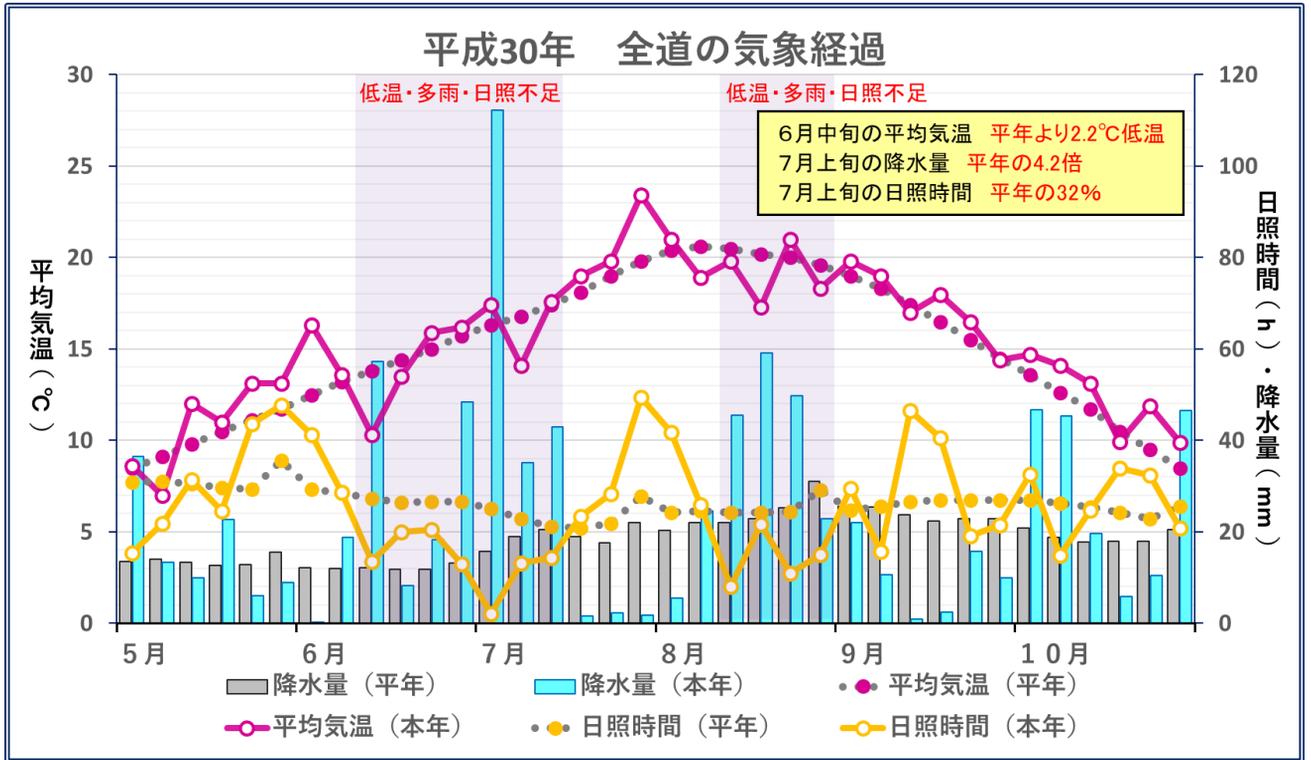
- 速やかに、まんべん無くほ場が乾くようになり、作業効率や作物の出来が良くなった。
- 天候の変化による作業の遅延が軽減され、収量や品質が向上した。
- 排水性が改善され、農薬や肥料の使用量が減少した。
- 野菜の作付が可能となり、高収益作物が作れるようになった。

出典：平成28年度農業生産基盤整備事業に関するアンケート調査データ (令和29年12月、北海道農政部)

# 【平成30年度 天候不順時の農作物被害に係わる調査】

## ◆ 平成30年度の気象

○ 平成30年6月以降の低温や多雨、日照不足に加え、7月上旬の大雨や9月上旬の台風などの災害により、水田地帯では米の作況指数が90となり、畑作・酪農地帯でも大豆のさや数が少なく収量が低下したほか、一番草・二番草の収穫作業や飼料用とうもろこしの登熟が遅れるなど全道的に農作業や農作物の生育に影響を及ぼした。

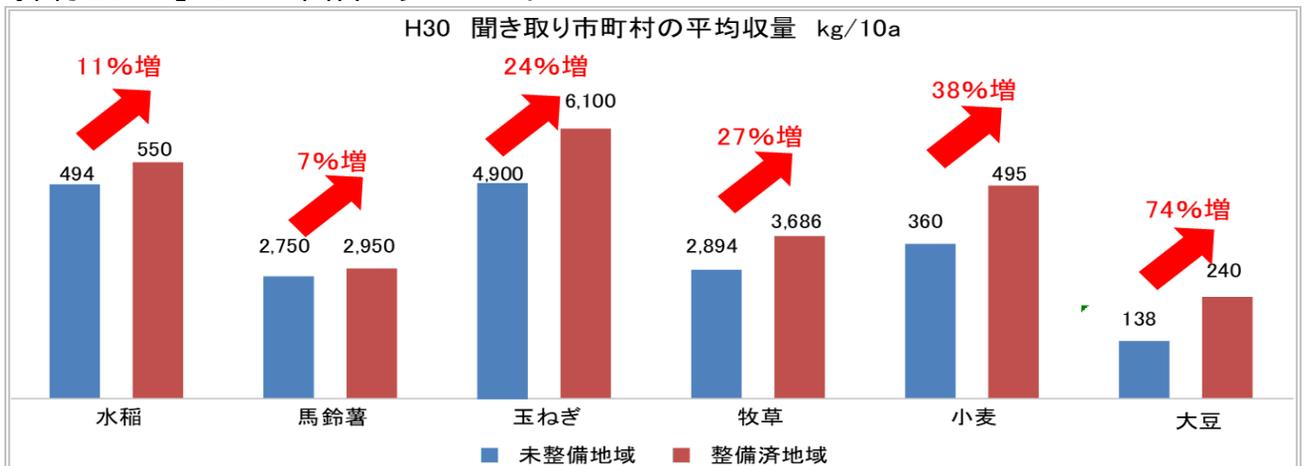


## ◆ 調査内容

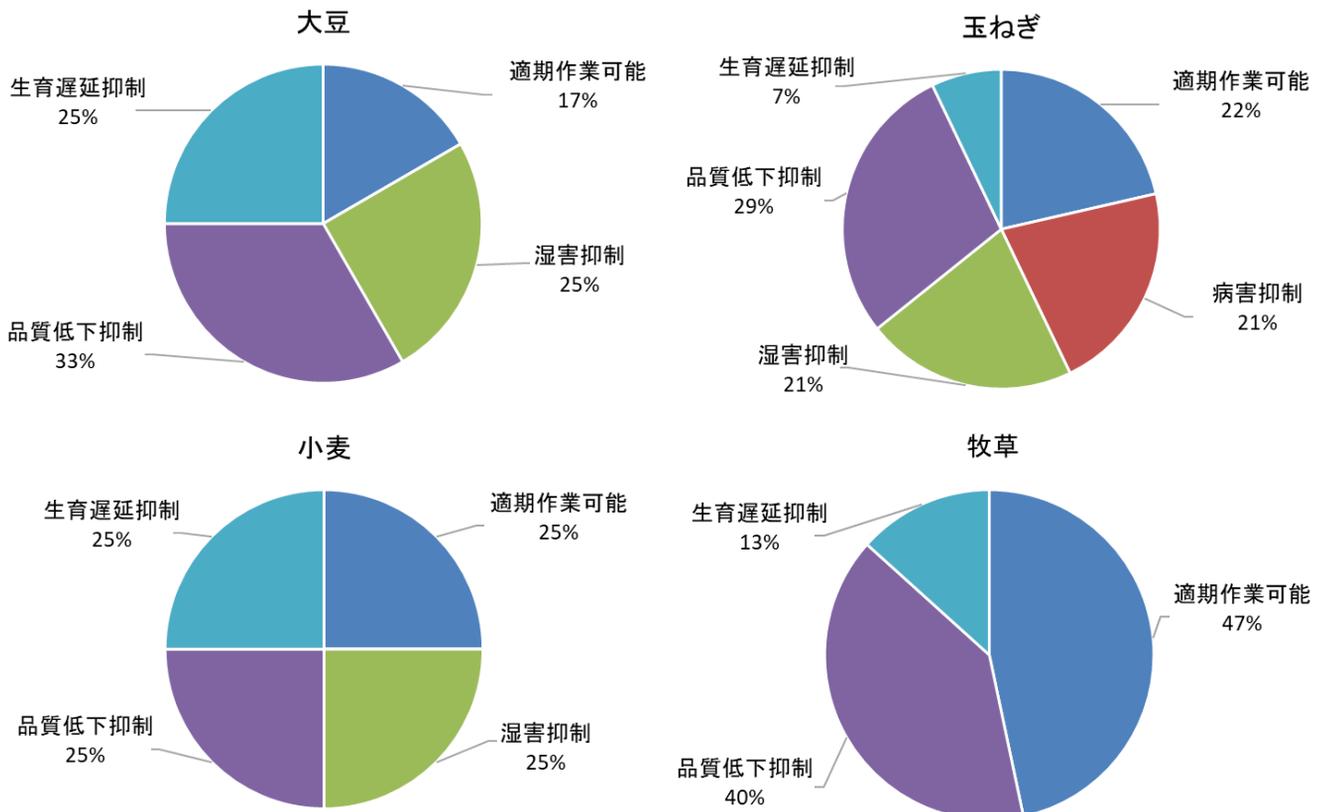
○ 暗渠排水や整地などの整備済地域と未整備地域における作物被害の実態を確認するため、全道32市町村で聞き取り調査を行った。

## ◆ 調査結果

○ 整備済地域では未整備地域と比較して、収量が多くなっており、天候不順による被害の軽減が確認された。  
 ○ その要因としては、「適期の作業が可能となった」、「湿害が抑制された」、「品質の低下が抑制された」などの回答が多かった。



# 被害軽減の要因



出典：平成30年度天候不順時の農作物被害に係わる調査結果（令和元年11月、北海道農政部）

## 生産者の声

- 異常気象による湿害が軽減され、降雨後の作業がスムーズになった。
- 異常気象で雨が多くても、水はけが良くなったので、防除作業のために早くほ場に入れるようになった。
- 以前は大雨が降ると滞水する畑だったが、事業により排水性が改善され、防除作業でトラクタが埋まらなくなり、植付から収穫までの作業が格段に良くなった。馬鈴薯の腐敗等も改善され、収益の向上につながっている。
- 異常気象時の被害が最小限にとどめられたほか、通常時においても収量が向上した。
- 排水性の改善により、作付作物の制約が無くなった。

出典：平成30年度完了地区  
農業生産基盤整備フォローアップ調査（基本調査）に関するアンケート調査結果  
（令和元年11月、北海道農政部農村振興局農村計画課、各（総合）振興局産業振興部）

## ◆ 総括

- 暗渠排水などの基盤整備を行った地域では、降雨後においても農作業が早期に再開できたことにより、適期作業が可能となるほか、湿害の抑制により、農作物の被害が軽減されていることが確認された。